

私たち夢アイデア委員会事務局は、期待と不安を胸に、首を長くして待っていました。夢アイデアの第1回公募を開始した平成14年の暮れのこと。はたしてどれほどの応募があるものか……。年の瀬も押し迫ったある日、朗報第1号が飛び込んできました。

今回のコラムは、この記念すべき第1号の応募者・上野毅さん（新日本技術コンサルタント代表取締役）にご登場いただいて、夢とアイデアが湧きいずる源流に迫っていただきました。（注：題名「みんなで遊ぼうよ 階段公園」分類＝夢アイデア HP「公共空間」→公園・広場・駅前空間の欄参照）

第7回

今も新鮮！ 第1回募集、応募1番の提案者の想い

平成24（2012）年5月

「なぜその発想が生まれたのか。なぜ階段公園なのか？」

雄大な桜島と対峙する城山。西郷隆盛の最期を遂げたあの城山を想っての発想だったのです。漠然と階段公園を頭に浮かべていたとき、夢アイデアの募集を知って、アイデアの形にしてみたのがこの作品です、そう彼は語ります。

「階段公園の思いつき」～ その源流



鹿児島市には市の中心部に、市街地・桜島を眺望できる「城山」という小高い丘（標高107m）がある。この城山は西南戦争最後の激戦地となった歴史的背景があり、国の史跡・天然記念物に指定され、市内屈指の眺望や夜景でも有名な観光スポットでもある。

そんな城山に、眼下に市街地、錦江湾・桜島を一望しながら思い思いの気持ちで歩いて登る楽しみを味わえたらいかがだろう？ そんなイメージを漠然と持っていたところに振って沸

いたのが、夢アイデアの募集だった。そこで、その想いのイメージ膨らませてみると、山の地形に応じた横長の、等高線に沿った開放感ある階段が浮かんできた。

城山は台形型の山であり、山頂部は平らになって自然公園化されており、ホテルや観光バス等が停車できる広い駐車場も整備されている。

山頂への遊歩道もあるのだが、一部の同好会の人たちが使うだけで、市民にさえも広く知られておらず、もっぱら車で頂上まで一気に登ってしまう。もっと楽しく、もっとゆったりと、そんな登り方はないものだろうか。そこで、提案は、「**地形に沿った横長の階段は視界が広く開放的で健脚を競うコース**」。

緩やかな地形で広い階段には、茶店や売店、休憩所、ベンチ等を設け、弁当食べたり、お茶したり、一休みして……。また、アスリート達には ロッククライミングができる急峻な横道コースも作り、力を競うこともいかがであろう？

そのような階段を老若男女が自分の足で夫々の思いに浸りながら、山頂を目指し「そこに山があるから……」有名なイギリスの登山家ジョージ・マロリーの名言のように……

あなたも聞かれたら、そのように答えて下さい……………「そこに階段があるから……と」(笑)

このように地理、地形的条件が一致するようなところに、是非 階段公園を……………その想いは今も健全で、夢の実現を願っています。

上野 毅

建設コンサルタント協会九州支部常任幹事